

「拒否の現実 (1) —イスラエル人の7つの特権—」

1. はじめに

(1) 福沢諭吉の「福翁自伝」

- ①豊前(ぶぜん)国下毛(しもげ)郡中津(現 大分県中津市)
- ②中津藩の下級武士出身
- ③幕末から明治にかけての、民主主義者、啓蒙家の第一人者となった。
- ④パウロとの共通点がある。

(2) ロマ書9~11章の扱いについて

- ①省略する(置換神学の立場。教会は新しいイスラエルであると考え)。
- ②軽視する(これは挿入句的なものである)。
- ③神が3章も使って啓示しておられる内容が軽いものであるはずがない。

(3) ロマ書全体の中での9~11章の位置づけ

2. 1~8章の復習

(1) 序言(手紙の紹介):1:1~17

- ①パウロの自己紹介
- ②福音は、先ずユダヤ人に、そして異邦人に。

(2) 義認(過去形の救い):1:18~5:21

- ①神の義の規準
- ②すべての人は神の義から外れている。
 - *野蛮な異邦人
 - *文化的な異邦人
 - *ユダヤ人
- ③神は、信仰と恵みによる義認を用意してくださった。

(3) 聖化(現在進行形の救い):6:1~8:18

- ①聖化もまた、信仰により恵みによる。
- ②聖化は聖霊に業である。

(4) 栄化(未来形の救い):8:19~39

- ①摂理は私たちが聖化へと導く。

②キリスト・イエスにある神の愛から私たちを引き離すものはない。

3. 9~11章の展開

(1) 本来ならば、「神の義の適用」(12~15章)に進むはず。

- ①パウロ書簡の特徴は、先ず教理、そして実践の順である。
- ②理解せずして、神の愛に応答することは不可能である。
- ③聖書研究の重要性がここにある。

(2) パウロは、当然の疑問に答えようとしている。

- ①イスラエル人に対する神の愛は、どうなったのか。
- ②9~11章は、「イスラエル人に関する神の義」の弁護である。
- ③きょうの箇所は、「イスラエル人の7つの特権」を扱っている。

4. アウトライン

(1) パウロの悲しみ(1~3節)

(2) イスラエル人の7つの特権(4~5節)

- ①子とされる
- ②栄光
- ③契約(複数形)
- ④律法を与えられること
- ⑤礼拝
- ⑥約束(複数形)
- ⑦先祖たち(族長たち)

5. メッセージのゴール

- (1) 誤解①
- (2) 誤解②
- (3) 誤解③

このメッセージは、イスラエルの特権について学ぶものである。

I. パウロの悲しみ(1~3節)

1. 1~2節

「私はキリストにあつて真実を言い、偽りを言いません。次のことは、私の良心も、聖霊によってあかししています。私には大きな悲しみがあり、私の心には絶えず痛みがあります」

(1) 真実な告白

- ①「キリストにあつて」：キリストは真理そのもの。
- ②「真実を言い」、「偽りを言いません」：同じ意味の繰り返し
- ③パリサイ派の伝統：2、3の証人の口による証言が必要。

*私の良心(キリストにある良心)

*聖霊(内住の聖霊)

(2) 告白の内容

- ①大きな悲しみがある。
- ②絶えず痛みがある。
- ③同胞の救いに関する痛みである。

2.3節

「もしできることなら、私の同胞、肉による同国人のために、この私がキリストから引き離されて、のろわれた者となることさえ願いたいのです」

(1) 「もしできることなら」

- ①これは不可能な願いである。
- ②キリスト・イエスにある神の愛から切り離されることはない。

(2) 「私の同胞、肉による同国人のために」

- ①パウロが感じている痛みは、人類一般に対してではない。
- ②同国人、つまり、ユダヤ人のための痛みである。

(3) 「のろわれた者」

- ①「神から見捨てられた者」(新共同訳)
- ②ギリシア語では「アナテマ」である。
- ③ヘブル語の「ヘレム」をLXXでは「アナテマ」という言葉に訳した。
- ④ヨシ6:17

「この町と町の中のすべてのものを、【主】のために聖絶しなさい。ただし遊女ラハブと、その家に共にいる者たちは、すべて生かしておかなければならない。あの女は私たちの送った使者たちをかくまってくれたからだ」

II. イスラエル人の7つの特権 (4~5節)

ロマ3:1~2

「では、ユダヤ人のすぐれたところは、いったい何ですか。割礼にどんな益があるのですか。それは、あらゆる点から見て、大いにあります。第一に、彼らは神のいろいろなおことばをゆだねられています」

ロマ9:4~5

「彼らはイスラエル人です。子とされることも、栄光も、契約も、律法を与えられることも、礼拝も、約束も彼らのものです。父祖たちも彼らのものです。またキリストも、人としては彼らから出られたのです。このキリストは万物の上であり、とこしえにほめたたえられる神です。アーメン」

(1) 1~8章では、「ユダヤ人」という呼び名が使用されていた。

①民族的なアイデンティティを示す言葉である。

(2) 9~11章では、「イスラエル」が12回出てくる。

①ユダヤ人は2回だけ(9:24、10:12)。

②イスラエルとは、神との契約関係を示す言葉である。

③イスラエル人の特権は、すべてこの契約関係を土台としたものである。

1. 子とされる

(1) 出4:22

「そのとき、あなたはパロに言わなければならない。【主】はこう仰せられる。『イスラエルはわたしの子、わたしの初子である』」

①イスラエルは民族的に「神の子」とされている。

②クリスチャンは、個人的に「神の子」とされている。

(2) ホセ11:1

「イスラエルが幼いころ、わたしは彼を愛し、わたしの子をエジプトから呼び出した」

(3) この関係は、今も壊れていない。

①イザ63:16

②エレ3:17~19、31:9、20

2. 栄光

(1) 出13:20~21

「【主】は、昼は、途上の彼らを導くため、雲の柱の中に、夜は、彼らを照らすため、火の柱の中において、彼らの前を進まれた。彼らが昼も夜も進んで行くためであった。昼はこの雲の柱、夜はこの火の柱が民の前から離れなかった」

①シャカイナグローリー

(2) シャカイナグローリーの現れ

①荒野

②幕屋

③神殿

④メシアであるイエス

3. 契約(複数形)

(1) 神がイスラエルと結んだ4つの無条件契約

①アブラハム契約

②土地の契約

③ダビデ契約

④新しい契約

(2) 無条件という意味

①これらの契約は、イスラエルの不信実によって破棄されるものではない。

②今も有効である。

4. 律法を与えられること

(1) シナイ契約とモーセの律法

①出19:16~20:1

(2) これは条件付き契約である。

①神の民に生活の指針を与えた。

②キリストの十字架によって、その要求は満たされたので、今は廃棄された。

5. 礼拝

(1) 「神への奉仕」とも訳せる。

①ギリシア語で「ラトレイア」である。

②神への最大の奉仕は、礼拝である。

(2) レビ記の規定

- ①祭司職
- ②幕屋
- ③いけにえのささげ物

6. 約束(複数形)

(1) メシア預言

- ①初臨
- ②再臨

(2) メシア的王国の預言

- ①人類一般に対する約束
- ②特に、イスラエル人に対する約束

7. 先祖たち(族長たち)

(1) 申10:15

「【主】は、ただあなたの先祖たちを恋慕って、彼らを愛された。そのため彼らの後の子孫、あなたがたを、すべての国々の民のうちから選ばれた。今日あるとおりである」

①アブラハム、イサク、ヤコブのことである。

(2) キリストとの関係

- ①人間としては、族長たちから出た。つまり、ユダヤ人である。
- ②キリストは、万物の上にある。
- ③とこしえにほめたたえられる神である。

結論

1. イスラエルの救いに関する誤解

- (1) 7つの特権は、彼らに救いを与えるものではない。
- (2) キリストに対する信頼がなければ、これらの特権は無意味である。

2. 神の愛に関する誤解

(1) パウロの悲しみと痛みは、理性ではなく、心で受け止める必要がある。

- ①彼は、裏切り者としていつも攻撃にさらされた。
- ②しかし、彼の本当の姿はそうではない。

(2) モーセの祈りが背景にある(出32:31~32)。

「そこでモーセは【主】のところに戻って、申し上げた。『ああ、この民は大きな罪を犯してしまいました。自分たちのために金の神を造ったのです。今、もし、彼らの罪をお赦しくだされるものなら——。しかし、もしも、かないませんなら、どうか、あなたがお書きになったあなたの書物から、私の名を消し去ってください』

- ①民はモーセを信用しなかった。
- ②しかし、彼の本当の姿はそうではない。

(3) イエスはエルサレムのために涙された(ルカ19:41~42)。

「エルサレムに近くなったころ、都を見られたイエスは、その都のために泣いて、言われた。『おまえも、もし、この日のうちに、平和のことを知っていたのなら。しかし今は、そのことがおまえの目から隠されている』

- ①イスラエルの不信仰は、神に責任があるのではなく、彼ら自身の問題である。
- ②神は、裁く時に涙しておられる。

3. イスラエルの役割に関する誤解

(1) 神の国の原則：後の者が先になり、先の者が後になる。

(2) 将来、イスラエルの救いは成就する。

- ①もしイスラエルが見放されたとするなら、私たちの救いも不安定なものとなる。

(3) イスラエルの救いは、キリストの再臨の条件である。

- ①再臨信仰を持つ者は、イスラエルの救いのために祈るべきである。